

謝 辞

この調査と著述の間に、たいへん多くの方々より援助を頂きとても助かりました。この場を借りて深く感謝致します。ラトガーズ大学とレンセラー工科大学の図書館員の方々、特にラトガーズ大学図書館のイレネ・K・リオニキス嬢、レンセラー工科大学図書館のオーリン・ラブレク夫人とアドリーエン・グレンフェル夫人からの親切と援助に感謝致します。米国土木学会のハーバート・R・ハンズ氏、デイビッド・プロードン氏、ミルトン・メイザー博士、バーモント大学の病理学の教授であるロイ・コルソン博士、W・H・ピアソン氏、シドニー・W・デービッドソン氏、J・ロバート・マグガイア氏、ニューヨーク市立博物館のシャーロット・ラルー氏、レジナ・M・ケラーマン氏、ウィリアム・S・グッドウィン氏、アラン・R・タルボット氏、ジョン・タルボット氏、ニューヨークのイースト・リバー橋梁の管理技術者であるジャック・シッフ氏、これらの方々には、調査にご協力いただきました。そして、ニューヨークのポール・グリオッタ博士には、私にこの本を考え出すきっかけを与えていただき、その後には、わざわざ私と一緒に橋梁を歩きながら、多くの疑問に答えていただきました。

スミソニアン協会機械・土木工学部門の管理官であるロバート・M・フォーゲル氏、ニューヨーク市史およびジェームズ・B・イーズの権威であるジョン・A・コーベンホーベン氏、自らも橋梁に関する広範囲の技術研究を行っておられる橋梁技術者のノーマー・グレイ氏、そして、作家で友人でもあるチャールトン・オグバーン氏には、特にお世話になりました。この方々には原稿を読んでいただき、数多くの重要な示唆をいただきました。しかしながら、この本における事実や判断に間違いがあったとすれば、その責任は全面的に私にあります。

また、ローブリング家の3人の方々、ローブリング家の先祖について私と話す時間を取っていただいたトレントンのジョセフ・M・ローブリング氏、同じくトレントンのF・W・ローブリング氏、そして一族の古いスクラップブックを借用させていただいたアーカンソー州フェイエットビルのジェームズ・L・エルストン夫人のご協力に感謝致します。

以下に示す研究施設とその職員の方々より受けた支援に感謝いたします。トレントン自由市民図書館、ピッツバーグのカーネギー図書館、ブルックリン公立図書館、ブルックリンのロングアイランド歴史学会と特に執行理事であるジョン・H・リンデンブッシュ氏、ロードアイランドのニューポートにあるニューポート歴史学会、国会図書館、ニューヨーク歴史学会、ニューヨーク公立図書館、ニューヨークの工業技術学会図書館、バーモント州ミドルベリミドルベリ大学図書館、ダートマス大学のベーカー図書館、ニューヨーク州コールドスプリングスのパットナム郡歴史学会とジュリアバターフィールド記念図書館、ペンシルベニア州バトラーのバトラー郡図書館。

また、今は亡き私の2人の大切な友人、私を励まし、私の模範となったコンラッド・リクター氏と、私の義父であるクラレンス・A・バーンズ氏からの恩義に感謝します。クラレンス氏は、

橋梁が未完成だった時期にブルックリンハイツのウィロー通りで生まれ、私が知っている誰よりも、古い時代のことを適切に話せる人でした。

最後に、絶え間なく激励し、適切なアドバイスをいただいたポール・R・レノルズ氏、当初からのこの構想を信頼していただいたサイモン&シュスター出版のピーター・シュード氏、原稿をタイプしていただいたジョー・アン・ルサール氏、私を信頼し和ませてくれた私の子供たち、そして、誰よりも私を支援してくれた妻のロザリーに、感謝をささげたい。

—デイビッド・マカルー